

東日本復興支援コンソーシアムが第1回報告会を開催 ～ 東日本復興支援コンソーシアムの公式サイトに『東日本復興チャンネル・アーカイブ』を開設！ ～

東日本復興支援コンソーシアム（会長 南相馬市長 桜井勝延）は、平成24年12月20日（木）、霞が関の東海大学交友会館において、東日本復興支援コンソーシアム第1回報告会を開催し、役員、会員企業等約40名が出席しました。

冒頭、桜井勝延会長は、ビデオメッセージを通じて、「南相馬市では、ホワイトスペースを活用した実験放送『みなみそうまチャンネル』を放送しているが、平成25年2月には、総務省の補助により地上一般放送局に移行し、本市の多くの地域で視聴が可能になる。復興のスローガンである“心ひとつに 世界に誇る 南相馬の再興を”を目指して、インターネットを通じても、全世界に情報を発信していきたいと考えている。今後は、この南相馬チャンネルのような取組が本市以外の被災自治体にも拡大していくように働き掛け、また、コンソーシアムへの参加を呼び掛け、『東日本復興チャンネル』の仕組みに発展させたい。」と挨拶しました。

続いて、齊藤一雅顧問（総務省北陸総合通信局長）は、「東日本大震災から1年と9ヶ月が経ち、復興の気運を風化させないためにも、それぞれの被災地において、被災者を勇気付け、“被災地の今”を発信し続けている「被災地メディア」の役割がこれまで以上に重要になっていく。東日本復興支援コンソーシアムは、こうした「被災地メディア」を『東日本復興チャンネル』と位置付けて、その運営と世界への情報発信を応援する『東日本復興チャンネル構想』を推進しているが、同構想のプロジェクトとして、各地の被災地メディアが報道し、制作し、発信している様々な番組、コンテンツを集めたアーカイブを創れないかと考えている。この『東日本復興チャンネル・アーカイブ』は、復旧、復興の歩みを中心に震災の真実の記録を歴史に遺し、後世に伝えるだけでなく、世界に向けて“被災地の今”的姿を発信し続ける“未来への遺産”になるような歴史的な価値のあるものにできれば素晴らしい。こうした取組自体が、「被災地メディア」を勇気付け、ひいては、復興を支援する大きな力になるのではないかと思う。」と挨拶しました。

引き続き、コンソーシアムの事務局を担当する一般財団法人東日本復興推進財団の鈴鹿和男代表理事及び曾田浩義理事から、会員の状況、一般財団法人東日本復興推進財団の概要、コンソーシアム公式サイト及び『東日本復興チャンネル・アーカイブ』の取組などが報告されました。

その後、南相馬市総務企画部情報政策課の佐藤祐一課長が、「みなみそうまチャンネルの現況」と題して講演し、自治体放送局としての南相馬チャンネル及び同市の震災復興に向けての取組を紹介し、また、株式会社NTTドコモ東北復興新生支援室の佐藤一夫ゼネラルマネージャーが、「NTTドコモの東北復興への取組」と題して講演し、フォトパネルを活用した行政情報の配信、タブレットを活用したコミュニティ支援の取組等を紹介しました。

東日本復興支援コンソーシアムでは、1月に公式サイトを開設するとともに、同サイト内に『東日本復興チャンネル・アーカイブ』をオープンし、各地の被災地メディアが制作した様々な動画・音声コンテンツを収集し、配信していきます。また、『東日本復興チャンネル構想』を推進するための企業向けのフォーラムや自治体向けのセミナーを開催していきます。今後とも、幅広い分野の皆様のご参加とご協力を待ちています。



南相馬チャンネルの取組の他の被災自治体への拡大を
呼び掛ける桜井勝延南相馬市長



『東日本復興チャンネル構想』を推進するための『東日本
復興チャンネル・アーカイブ』開設への期待を述べる齊藤
一雅北陸総合通信局長



南相馬チャンネル及び同市の震災復興に向けての
取組を紹介する佐藤祐一南相馬市情報政策課長



タブレットを活用したコミュニティ支援の取組等を
紹介する佐藤一夫NTTドコモ東北復興新生支援室
ゼネラルマネージャー

問い合わせ先：東日本復興支援コンソーシアム

事務局（株式会社ヨーズマー東京支社内） 03-5117-2900

：北陸総合通信局

情報通信部電気通信事業課 076-233-4420